

2007年12月27日

「世の中」と「身の回り」の経済状況についての意識調査

## 経済気分2008

～「来年の景気が良くなる」と答えた人は、昨年より14.1ポイント減少の15.8%に～

博報堂生活総合研究所は「世の中」と「身の回り」の経済状況についての意識調査（2007年11月末）を実施し、「経済気分2008」としてまとめましたのでご紹介いたします。

2007年の経済状況についての評価を見ると、「世の中の景気が良かった」という人は昨年比4.1ポイント減の16.7%、「悪かった」という人は10.2ポイント増の41.7%となりました。「自分自身の生活の経済状況（月収、ボーナス、こづかいなど）が良かった」という人は昨年比7.2ポイント減の17.9%、「悪かった」という人は0.9ポイント減で41.4%、「どちらともいえない」という人が7.5ポイント増の39.3%でした。マクロ指標的には景気回復が続いているとの分析ですが、賃金の伸び悩みや、特に年後半に目立った生活必需品の値上がり、ガソリン価格の上昇などに直面し、生活者の実感レベルでは、2007年は「世の中」「自分自身」とともに厳しい状況だったと言えそうです。

来年への展望（2008年への展望）については、「来年の世の中の景気が良くなる」と答えた人は15.8%で、昨年（2007年への展望）に比べ14.1ポイントの大幅な減少となっています。一方、「悪くなる」と答えた人は40.5%と23.9ポイントも増えています。昨年につき、翌年への景気の期待度は大きくないようです。また、「自分自身の生活が良くなる」と答えた人は4.8ポイント減の20.8%、「悪くなる」と答えた人は3.6ポイント増の31.8%、「今年と変わらない」と答えた人は昨年とほぼ同数の45.8%でした。12月に発表された日銀の短観によれば原油価格の高騰やサブプライム問題に端を発した米国経済の減速懸念などにより企業の景況感が悪化しています。また、生活者の日常生活でも現在の状況が改善される見通しは不透明です。生活者は暮らしの先行きに不安を感じているようです。ただ、報道などによると、2008年度の春闘では、経団連が賃上げに積極的な姿勢を打ち出しています。これが実現され賃金増に結びついていけば景気回復にプラス効果が期待できます。

なお、詳細の調査結果は以下の通りです。

### 〈調査結果〉

\*（ ）内の数値は昨年と同調査の結果です。また、矢印は昨年と比較した今年の概況を示します。

（1）今年の「世の中の景気」はどうだったと思いますか。

良かった	16.7%	↓	(20.8%)
悪かった	41.7%	↑	(31.5%)
どちらともいえない	40.2%	↓	(46.8%)

(2) 今年の「あなた自身の生活（月々の収入、ボーナス、こづかいなど）」はどうだったと思いますか。

良かった	17.9%	↓	(25.1%)
悪かった	41.4%	↓	(42.3%)
どちらともいえない	39.3%	↑	(31.8%)

(3) 今年と比べて来年の「世の中の景気」はどうなると思いますか。

良くなる	15.8%	↓	(29.9%)
悪くなる	40.5%	↑	(16.6%)
今年と変わらない	42.3%	↓	(52.4%)

(4) 今年と比べて来年の「あなた自身の生活（月々の収入、ボーナス、こづかいなど）」はどうなると思いますか。

良くなる	20.8%	↓	(25.6%)
悪くなる	31.8%	↑	(28.2%)
今年と変わらない	45.8%	↑	(45.4%)

注) : 合計が 100% になっておりませんが、これは調査データに一部「無回答」が含まれるためです。

調査対象者 : 首都圏の 21 才から 73 才までの男女 336 人  
調査方法 : 郵送法  
調査年月 : 2007 年 11 月下旬

本件に関する詳細のお問い合わせは  
博報堂生活総合研究所 塚本 (03-3233-6450) までお願いいたします。